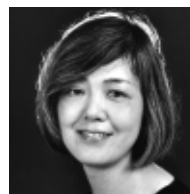




かばんの中

持ち物から 高校生の生活を知る



宮川・ジロー三保
Miho Miyakawa-Giraud

トーマス・マン高校
(ドイツ、バーデン・
ビュルテンベルグ州)

授業のねらい

日本の女子高校生がかばんに入れて持ち歩いている物品を通じて、その持ち主が関心を持っていること、趣味、大切に思っていることがわかり、さらには周りの人間関係や社会環境までが漠然と見えてくる。中高校生の間で携帯電話が普及していることやカラオケ、ルーズソックスといった若者文化などを知ることで、日本を身近に感じるとともに、自分たちとの共通点と相違点を考える。

学習項目

言語面

機能	表現	語彙
<ul style="list-style-type: none"> ❖ 情報を得る ❖ 自分の考えを述べる 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ ~は~です、~は~ですか、~に~があります、助詞「と」の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ かばん、教科書、ノート、筆入れ、さいふ、ハンカチ、かがみ、くし、メモ帳、化粧品、携帯電話など物品の名称 ❖ ~さん、~歳、~年生

文化面

日本の中高校生がどんなことに関心を持っているのかを知り、理解する
日本の中高校生を取り巻く社会環境と自分たちの社会環境を比較し、考えを述べる

レッスンプラン

用意するもの

- 「フツアの日本人」(『につばにあ』No.7, 1999, 平凡社)
(資料*)
財布、ハンカチ、鏡、櫛、メモ帳、化粧品、携帯電話
語彙カード
ルーズソックスとカラオケの写真

授業の進め方

準備

1. 表にドイツ語、裏に日本語を書いた語彙カードを用意する(たとえば、表にHandtuch、裏にハンカチと書く)。
2. 授業の導入になるようなもの(財布、口紅、電子手帳など)をかばんに準備しておく。

1. 導入(3分)

「今日は私のかばんの中を見せましょう」と言い、まず生徒たちの関心をひきつけ、かばんの中から財布、口紅、電子手帳を出してみせ、短い説明をする。

2. 生徒に説明させる(5分)

「では、みなさんのかばんには何がありますか」と質問し、中に入っているものを取り出させる。2、3人にそれについて簡単な説明をさせる。

3. 資料1(5分)

「ところで、日本の女子高校生のかばんに何がありますか」と話題を展開し、ドイツ語で書かれた資料を配付し、生徒に読ませる。

4. 日本語で答えさせる(5分)

資料に書かれている内容について、既習の「～は(名詞)です」「～は(名詞)ですか」「～は何歳ですか」と質問し、生徒に資料からその答えを読みとらせて日本語で答えさせる。

5. 新しい語彙を説明する(12分)

女子高校生のかばんの中に入っていたものと同じものをあらかじめ用意しておき、実物と対応させなが

ら語彙カードを使い、ものの名称を日本語で何とよいか教える。「ルーズソックス」「カラオケ」については写真を見せながら説明する。

6. 構文を説明する(10分)

構文「～に(名詞)があります」「～と～」を説明し、練習させる。

7. 感想を発表させる(10分)

まとめとしてワークシートに記入させ、ハンドアウトを読んだ感想を発表させる。

生徒の感想

ドイツと日本の女子生徒の関心は比較的似ているように思う。それはかばんの中に入っているものからうかがえる。

備考

時間に余裕があれば、実物と日本語の語彙カードを正しく合わせるゲームを行う。

「フツアの日本人」からいろいろなことを発見し、改めて自分の周囲の状況に目を向けるきっかけになったと思う。今回は時間がなかったが、問題を掘り下げ、なぜ学校が制服を決めているのか、なぜ学校に化粧品を持ってきてはいけないのか、携帯電話の是非などテーマを発展させて話し合わせるができる。また、その話し合いのための資料を生徒に探させたり、「日本の生徒」対「ドイツの生徒」という形で討論させることもできる。

選考委員会から

このレッスンプランは、学習項目の表現や語彙を変えれば、どんな学習レベルの生徒にも使えるでしょう。資料に出てくる「モーニング娘。」や「Speed」に生徒が関心を持つようであれば、歌を紹介するのもいいでしょう。また、書道の道具に興味を示したら、書道に挑戦させてみるのもいいでしょう。

フツの日本人

電話をかけ過ぎて
携帯電話を解約しました。

小原有紀子さん(16歳)は高校1年生。東京の北に隣接する埼玉県内の公立高校に通っている。家族は、両親と6歳上の姉が一人。同じ年頃には「学校が嫌い」「家族とは話さない」という少年少女も少なくないが、小原さんは「学校は大好き、家族とも仲がいいです」と笑顔で話す。学校が好きな理由は「友達がいるから。私のクラスは全員仲がいいんです」。その大好きな学校には、今のところ無遅刻で通っている。

学生カバン は制服と同様、学校指定のもの。教科書とノート、筆記用具を入れる筆箱 は授業の必需品。

は財布。 は定期入れ。 は体育のあとに汗をふく小さなタオル。

の手帳にはびっしり予定やその日にあった出来事が書き込まれている。「毎日忙しくて、書くことはいっぱいあります。仲のいい女の子の友達が4人いて、放課後はほとんど毎日その子たちと遊ぶ予定があるし、休みの日も買い物に行ったり、お互いの家に泊まりに行ったり。」そんなふうに毎日何時間おし



週に2~3回はカラオケボックスに行く。よく歌うのは、女性アイドルグループ「モーニング娘。」と「SPEED」の歌。

フツの日本人

Everyday People in Japan

やべりしても「全然時間が足りない」とか。

は靴下を足に止める接着剤。小原さんがはいている靴下は“ルーズソックス”といい、女子高校生の間で流行しているもの。長くて幅の広い独特の形で、たるませ具合や長さを自分で調節して、接着剤で止めるのだ。化粧をするのも、化粧品を持ち歩くのも学校では禁止されているが、ポーチには化粧道具が。化粧品はいつのまにか増えてしまうという。

は人気キャラクター、キティちゃんの鏡と櫛。

は携帯電話。「実はこれ、契約を解除して使えないんです。毎月のお小遣いとは別に通話料金を親に払ってもらってたんですけど、夏休みについ使いすぎて電話代が25,000円くらいになって。叱られる前に、反省の印として自分から申し出たんです。不便ですけど、遊んでる時に父親から“今どこにいる、帰りは何時だ”と、チェックの電話が入らないのはすごく気楽(笑)」。 は書道の道具。学校の部活動で使う。カラオケを歌う専門の店「カラオケボックス」に放課後行くため、のCDを、その練習用として買った。

今が楽しくてしょうがない、という感じの小原さんだが、将来は看護婦になりたいと考えている。「高校を卒業したら、寮のある看護学校に行くつもり。早く家を出て自立したいんです」。ハキハキとしていて活発な小原さんは、患者さんの心を明るくするいい看護婦になるだろう。

(文：徳永京子 写真：原弘文)



文・写真・キャプション(3-4頁) : 『につぼにあ』 No.7, 1999 (平凡社) pp.18-19 「フツの日本人」から転載